令和元年　校内研究計画

小田原市立下中小学校

研究主題　「学び合い、高め合う子どもの育成」

～　子どもたちが主体的に学び合う授業づくり　～

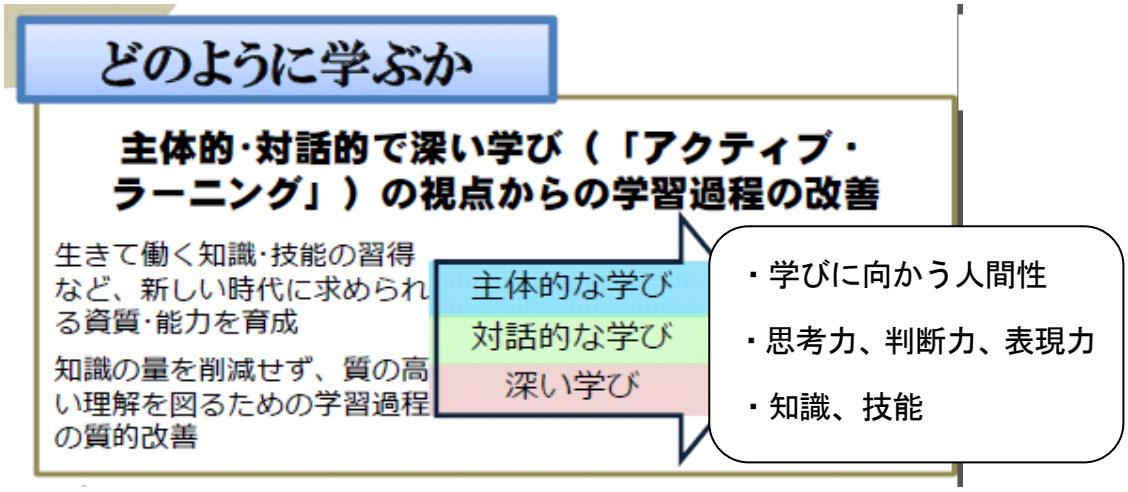
（理科・生活科）

１　主題設定の理由

（１）新学習指導要領へむけて

（平成２８年８月中央教育審議会「次期学習指導要領に関するこれまでの審議のまとめ補足資料」より一部抜粋）

新学習指導要領の改訂の方向性として子どもたちが「どのように学ぶか」という、**主体的・対話的で深い学び（アクティブラーニング）の視点からの学習過程の改善**が論じられてきた。



「主体的な学び」

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

「対話的な学び」

子ども同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

「深い学び」

各教科等で習得した知識や考え方を活用した、「見方・考え方」を働かせて、学習対象と深く関わり、問題を発見・解決したり、自己の考えを形成したり、思いを元に構想・創造したりする「深い学び」が実現できているか。

下中小学校でも平成２９年度より、この点を意識して研究をしてきた。今年度も研究に取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」のある学習を行い、生涯にわたって学び続ける子どもの育成を目指していきたい。

（２）理科・生活科学習について

平成３０年度の全国学力・学習状況調査において理科を追加して実施した。その結果、正答率は６１．０％と、前回の平成２７年度の６０．４％から上昇する結果となった。分析によると、「観察・実験の結果を整理・分析して考察した内容を記述することや、実験結果を基により妥当な考えに改善し、その内容を記述すること」などに課題が見られ、まとめの部分の充実が求められている。

また新学習指導要領生活科における改定の要点は、「各教科等における学習との関連性」、「幼児教育とのつながり」、「中学年以降の学習とのつながり」と系統性を考えて指導していくことが挙げられている。これらの教科の課題を研究に取り入れていく必要がある。

（３）本校の「学校教育目標」および「めざす子ども像」から

学校教育目標　　『進んで学ぶ子　心豊かな子　たくましい子』
～新しい時代に向けた「生きる力」を育てる教育の実践～

めざす子ども像

進んで学ぶ子　…**主体的に意欲的に学ぶ子**・基礎、基本を身につける子・よく聞き判断し、話し書ける子
心豊かな子　　…命、人、生き物を大切にする子・思いやりや感謝する心を持つ子
豊かな関わりが持てる子・地域を誇りに思える子
たくましいく子…しっかり食べる子、粘り強い子・心身を鍛え健康管理ができる子
危険予知・回避のできる子

進んで学ぶ子の具体的な取り組み

・新学習指導要領全面実施にむけた準備
・学力状況調査や授業評価等の活用
・校内研究と自己研鑽の充実
・「家庭学習のすすめ」の活用

（４）研究の経過

本校では平成１８年度から「学び合い、高め合う子どもの育成」を目指して校内研究に取り組んできた。これまでの研究の経過は以下のような流れになっている。

＜研究経過＞

平成１８年度～平成２３年度	（５年間）	国語科を通して
平成２４年度～平成２７年度	（４年間）	算数科を通して
平成２８年度	（１年間）	理科・社会科・生活科を通して
平成２９年度～	（２年間）	理科・生活科を通して

平成２８年度より、それまでの算数科の研究を通してある程度確立してきた学び合いの姿を土台とし、他教科に活かすことができないかと考え、研究の間口を理科・社会科・生活科へとし、学ぶことが楽しいと思えるような授業作りを目指して研究を進めた。しかし、子どもたちの意欲の高まりを感じることはできたものの、焦点化されず深まりのある研究にすることができなかった。

そのため、平成２９年度は教科を理科・生活科にし、学習内容と日常生活を関連させた授業作りを目指して研究を進めた。それにより主体的に問題解決しようとする姿がたくさん見られるようになった。

そこで平成３０年度は、自分たちで問題解決していく授業を目指して研究を進め、単元構想を作ることで思考の流れに合った学びの姿が見られた。その中で、前後の単元のつながりを意識して単元構想を作っていく必要性があることが分かってきた。

２　今年度の研究の方向性

これまでの研究の流れ、そして昨年度の反省をもとに今年度の研究を次のように計画した。

＜下中小学校学校教育目標＞

◎進んで学ぶ子・心豊かな子・たくましい子

～新しい時代に向けた「生きる力」を育てる教育の実践～

研究主題

「学び合い、高め合う子の育成」

～　子どもたちが主体的に学び合う授業づくり　～

＜今年度の着地点＞

① 子どもの思考の流れに合った年間計画の作成。

② 目指す子ども像へ向け、手立てを考え授業を実践することで、学び合い高め合う姿を見ることができる。

① 単元構想・年間計画

子どもたちの疑問や試行錯誤する場、学びを働かそうとする姿を想像しながら単元の順番を検討したり、単元構想を作成したりすることで、見通しをもった指導へとつなげる。

②目指す子ども像の設定

発達段階に応じて主体的に学び合う姿を設定し、その実現へ向けて具体的な手立てを考える。

＜今年度の重点＞

「子どもたちが進んで学び合うことができる」（理科・生活科）

① これまでの学習を参考に児童の思考の流れや、学びを働かそうとする姿を想像しながら単元の順番を検討したり、単元構想を作成したりすることで、見通しをもって指導を実践していく。＜１（２）（４）より＞

② 主体的に学び合う姿が見られるように具体的な手立てを検討し、実践していく。＜１（１）（３）より＞

・これまでの研究の成果（意欲向上・日常生活との関連・問題解決学習）を参考に、手立てを模索する。

③ 教師の安全意識の向上（教材の研究）

確かな学力の育成

〇問題解決学習を繰り返し行うことで、自分なりに実験方法を考えることができるようになった。

〇問題解決学習を繰り返し行うことで進んで調べたり、工夫したりすることができる。など（３０年度の研究）

日常生活の関連

〇理科で学んだことを日常生活と関連させることで、想像する力を育められる。

〇学習内容を日常生活と関連させることで、進んで問題解決に向うことができる。など（２９年度の研究）

学習意欲の向上

〇自分なりの考えがもてるように指導することで、分かった喜びから学習意欲を高められる。

〇単元を貫く課題を設定することで、問題解決に向うことができる。　など　（２８年度の研究）

◎職員研修による個々の授業力向上

〇職員研修の場を生かし、個々の授業力や教師としての資質向上を目指すための基盤作りを行う。

３　具体的な研究内容

① 子どもの思考の流れや学びを働かせる姿を想像した年間計画の作成

昨年度、前後の単元のつながりを意識して単元構想を作っていく必要性があることが分かってきた。

そこで、今年度も講師の方を招き、改めて単元構想の研修を行っていきたい。また、いくつかの教科書を参考にしながら、学習の系統性を考え単元の順番を検討していきたい。

② 子ども同士が学び合う姿を目指した具体的な手立ての実践

研修主題である学び合い、高め合う子の育成へ向けて、「子ども同士が主体的に学び合う姿」を共通理解し、実現へ向けて手立てを考えて授業実践していく必要がある。そこで、第２回の校内研究で、発達段階を考えながらブロックごとに学び合う姿を検討していきたい。昨年度の研究で目指した子ども像、昨年見られた学び合う姿は次のものであった。それを参考に研究部で今年度の目指す子ども像の例を考えてみた。これらを参考にしてブロックごとに今年度の姿を検討していただきたい。そして目指す姿へ向けた手立てを考え授業実践を行っていきたい。

	昨年度の確かな学力を身に付けた目指す子ども像
低学年ブロック	・自分から進んで活動できる子 ・もっと工夫してみようと考える子 ・自分や身近な人・自然・社会のよさに気づける子 ・気づいたことを自分なりに表現できる子
中学年ブロック	・興味、関心や目的意識を持って、観察、実験に取り組む子 ・学び合える子 ・結果から分かることをまとめられる子 ・正しい器具の使い方を身につける子
高学年ブロック	・自分の考えを持てる子 ・既習学習、日常生活を基に、目的意識を持って考える子 ・ちょっとした変化を見落とさず、正確に読み取れる子 ・結果から考察を自分の言葉でまとめられる子
わかばブロック	・進んで活動に取り組める子 ・自分から他者と関わろうとする子 ・自分も他者も認めることができる子 ・くり返し体験することで、いろいろなことに気付ける子

昨年度の成果	課題
＜低ブロ＞ ・友だちと進んでかかわり合おうとすることができた。 ・時間をかけることで、自然の面白さや自分の成長について気付くことができた。	・アドバイスをもとにグループで工夫をする時には、どう工夫をするのか、うまく話し合うことができないことがあった。
＜中ブロ＞ ・結果を共有する活動を繰り返すことで、自分の考えを広げることができた。 ・結果に驚き、なぜそうなったのか要因を考えることができた。	・結果から、違うところや同じところについて考える子が増えてきたが、力の差が大きく難しい子もいた。 ・学んだことを生活になかなか結びつけることができなかった。
＜高ブロ＞ ・交流することで、考察を広げたり深めたりすることができた。 ・予想を立てる時、日常生活を基に考えることができた。 ・見いだしたことを生活に当てはめることができた。	・自分たちで条件をそろえて、実験を考えることがなかなかできなかった。 ・結果と考察の違いが難しく、規則性について考えることがなかなかできなかった。

＜わかば＞ ・繰り返すことで、すべきことが分かり、友だちに次にすることを教える姿が見られた。	・交流の場面で「自分を見て。」「自分を認めて。」とアピールしたくて､他者のマイナス面に注目してしまうこともあった。

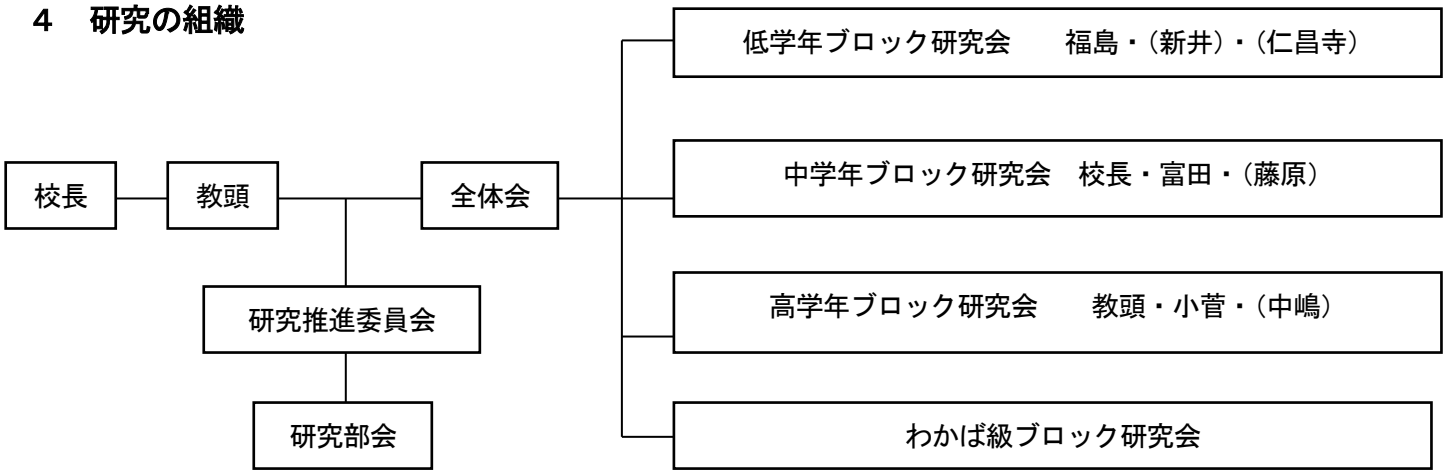
	今年度の子ども同士が学び合う姿　例
低学年ブロック	・友だちと話そうとしたり聞こうとしたりする子 ・ペアやグループで話し合える子
中学年ブロック	・意見交流することで、自分の考えを広げる子 ・結果から要因を考え、生活の中で生かす子
高学年ブロック	・意見交流することで、自分の考えを広げたり深めたりする子 ・条件をそろえたり、既習学習を活用したりして自分たちで実験計画を立てられる子
わかばブロック	・自分の分かることを友だちに伝えられる子

。

③教師の安全意識の向上（教材の使用法研修の実施）

新学習指導要領において事故防止・教材の正しい使い方・薬品の確実な管理が求められている。そこで今年度も理科の教材の使用法や理科室の使い方の研修を実施し、教師の安全に対する意識を高めることで研究を充実させていきたい。

4　研究の組織



〇研究推進委員会は、校長・教頭・推進委員長（福島）・研究主任（阿部）・研究副主任（柴田）・学年代表で構成していく。
〇研究部会は、推進委員長・研究主任・研究副主任で構成される。
〇わかば級ブロックは独自の授業提案を行う。（各ブロックにも位置付け、可能な限り一緒に授業研究に取り組む）